

1000年以上に及ぶ滋賀県の歴史記録の中には、数多くの地震が記されています。歴史地震について知ることは、悲惨な地震災害を軽減するためにはもちろんのこと、自然の営みと人間の営みの関連について考え、さらには災害多発時代における社会のありかたを見出す上で重要な示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

## 1. 近江国・滋賀県に被害を与えた大地震

近江国・滋賀県で犠牲者を生じさせた大地震は、過去1100年間に10回以上あります(表3-9-1・図3-9-1)。さらに戦国時代以前には、この表に書かれていない(信頼できる被害記録が残されていない)大地震も少なくないと考えられます。一方、確実に記録が残されている江戸時代以降についてみると、滋賀県に犠牲者をもたらした地震は400年間に7回にのぼります。1946年の昭和南海地震以降の約80年間、幸い滋賀県に大きな被害をもたらす地震は起きていませんが、これはむしろ単なる偶然と思われます。

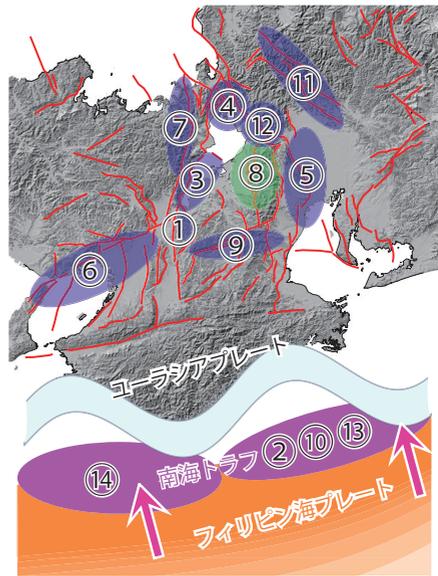
表3-9-1 近江国・滋賀県に大きな被害を与えた歴史地震(宇佐美ほか、2013に基づいて作成)

| 番号 | 地震名      | 発生日                   | 規模(マグニチュード) | 主な被害   | 震央・地震を起こした断層と地震のタイプ             |
|----|----------|-----------------------|-------------|--|---------------------------------|
| ①  | 天延地震     | 976(天延4)年<br>7月22日    | ≧6.7        | 近江国府庁(現大津市大江)倒壊など県南西部で被害大  | 京都市山科盆地周辺?の内陸地震                 |
| ②  | 永長(嘉保)地震 | 1096(嘉保3)年<br>12月17日  | 8.0~8.5     | 勢多(瀬田)橋落ちる<br>駿河国、伊勢の阿乃津(津市)に津波襲来                                      | 南海トラフ(プレート境界地震)                 |
| ③  | 元暦京部地震   | 1185(元暦2)年<br>8月13日   | 7.4         | 延暦寺、大津市坂本で被害大、近江で田三丁(3ha)地裂け淵となる<br>平安京東部で被害大                          | 琵琶湖西岸断層帯南部の内陸地震                 |
| ④  | 正中地震     | 1325(正中2)年<br>12月5日   | 6.5±1/4     | 竹生島の半分が崩れ琵琶湖に崩落<br>湖北山地の西近江路(荒地中山)で崩壊発生                                | 滋賀県北部(柳ヶ瀬断層、敦賀断層?)の内陸地震         |
| ⑤  | 天正地震     | 1586(天正13)年<br>1月18日  | 7.8±0.1     | 長浜城倒壊と城下町で被害大<br>三重県北部から富山県に至る広範囲で被害大                                  | 養老-桑名-四日市断層帯などの内陸地震             |
| ⑥  | 慶長伏見地震   | 1596(文禄5)年<br>9月5日    | 7.5±1/4     | 栗田郡葉山村(現栗東市北部)で家屋倒壊、死者多数<br>大阪府、兵庫県南部で被害激甚                             | 有馬-高槻断層帯(大阪府-兵庫県)などの内陸地震        |
| ⑦  | 寛文近江若狭地震 | 1662(寛文2)年<br>6月16日   | 7 1/4 ~ 7.6 | 滋賀県西部で激甚被害、唐崎郡・志賀郡(大津市北西部)、<br>大溝(高島市勝野)、彦根など家屋倒壊多数<br>大津市葛川で大規模な山崩れ発生 | 三方-花折断層帯北部(福井県-滋賀県西部)の内陸地震      |
| ⑧  | 文政近江地震   | 1819(文政2)年<br>8月2日    | 7 1/4±1/4   | 近江八幡、彦根、大溝、膳所(大津市)で多数の家屋が倒壊<br>金沢から大阪に至る広範囲で被害発生                       | 滋賀県中部(湖東地方)<br>フィリピン海プレート内の深い地震 |
| ⑨  | 安政伊賀地震   | 1854(嘉永7)年<br>7月9日    | 7 1/4±1/4   | 大津市膳所、水口市、栗東市など県南部で被害大<br>三重県北部で被害激甚                                   | 木津川断層帯(三重県)の内陸地震                |
| ⑩  | 安政東海地震   | 1854(嘉永7)年<br>12月23日  | 8.4         | 彦根藩で犠牲者2人、全壊140軒 静岡県~和歌山県で被害甚大、32時間後に安政南海地震(マグニチュード8.4)続発              | 南海トラフ(静岡県沖~三重県沖)のプレート境界地震       |
| ⑪  | 濃尾地震     | 1891(明治24)年<br>10月28日 | 8.0         | 滋賀県内で犠牲者6人、全壊家屋404軒<br>日本の内陸地震で最大、中部~近畿地方全体で被害大                        | 濃尾断層帯(福井県-岐阜県南部)の内陸地震           |
| ⑫  | 江濃(姉川)地震 | 1909(明治42)年<br>8月14日  | 6.8         | 東浅井郡、坂田郡(現長浜市・米原町・彦根市)で犠牲者35人<br>全壊961軒等県東部で被害大                        | 長浜市付近の内陸地震                      |
| ⑬  | 昭和東南海地震  | 1944(昭和19)年<br>12月7日  | 7.9         | 滋賀県内で全壊家屋7軒 静岡県~三重県で被害激甚   | 南海トラフ(静岡県沖~三重県沖)のプレート境界地震       |
| ⑭  | 昭和南海地震   | 1946(昭和21)年<br>12月21日 | 8.0         | 滋賀県内で犠牲者3人、全壊家屋9軒<br>三重県~高知県で被害激甚<br>2年前に東に隣接する海底で東南海地震(マグニチュード7.9)が発生 | 南海トラフ(和歌山県沖~高知県沖)のプレート境界地震      |



## 2. 様々なタイプの地震

滋賀県に大きな被害を与える地震には、①昭和東南海・南海地震のような南海トラフの海底で起きるプレート境界地震、②近畿地方に数多く存在する活断層や、それに関連する地下20km以浅の浅い部分(地殻内)で発生する内陸地震、③本州の下の深さ数十kmに沈み込んでいるフィリピン海プレートの中で生じる深い地震、の3タイプがあります。そのうち、①の南海トラフの地震や、③の深い地震では、毎回地盤が弱い琵琶湖湖畔の内湖を埋め立てた場所で局所的な被害が生じています。一方、②の直下型地震では、震央(震源の直上の地点)や地震を起こした活断層周辺の広範囲に激甚な被害をもたらす傾向があります。このような様々なタイプの地震が起きていることは、滋賀県の地学的な特徴の1つといえます。



楕円は震源断層の位置を示す  
活断層  
タイプ別の地震の  
① 南海トラフ(プレート境界)の地震  
② 内陸型(プレート内型・活断層型)地震  
③ 深い(フィリピン海プレート内)地震

図3-9-1  
近江国・滋賀県に大きな被害を与えた歴史地震とそのタイプ 丸数字は表3-9-1の番号に対応

## 3. 歴史の中の地震

ところで歴史を振り返ると、平氏滅亡と鎌倉政権樹立の間の1185年夏に起きた元暦京都地震、豊臣秀吉による天下統一の中で発生した1586年天正地震・1596年慶長伏見地震、さらには幕末動乱勃発と共に生じた1854年安政伊賀地震・同年安政東海地震など、大きな歴史の転換期に、本県を襲う大地震がしばしば発生してきました。これらは自然現象と社会変革がたまたま同時発生しただけではあるものの、深刻な災害は社会の中に芽生えつつある新しい時代に向けた動きを加速する1つの要因となる可能性を持つのではないかと、筆者は考えています。

たとえば1891(明治24)年の濃尾地震は、明治憲法施行の1年後に起きた地震でしたが、この地震で西洋の最新技術を駆使して建造された建造物の多くが完成後間もなくして激しく損壊してしまいました。このことは、技術者に衝撃を与え、わが国独自の近代技術形成を促すきっかけの1つとなったかもしれません。このような、自然の営みが社会に与える影響を見出す上で、本県の地震災害と人間社会の対応に関する長い歴史記録は、大変示唆に富んでいると言えるでしょう。

琵琶湖博物館(特別研究員) 小松原 琢